

平成25年度第2回 倉敷市地域福祉基金運営委員会

日 時 平成26年2月4日（火）9時30分～10時40分

会 場 倉敷市役所本庁舎7階 701会議室

出席者

委員 三村委員，植田委員，山崎委員（副会長），山磨委員（監事），岡野委員，岡本委員（会長）
木村委員，榊原委員（監事），藤田委員

事務局

保健福祉局）生水局長，岡副参事
保健福祉推進課）月本課長補佐，妹尾主任，久保田副主任

欠席者

委員 石井委員

傍聴者 なし

議事内容（要旨）

（◎会長 ○委員 ■事務局）

1 開 会

委員9名の出席により，倉敷市地域福祉基金運営委員会規約第9条第2項の規定に基づき，会議が成立していることを確認し，開会を宣言した。

規約に基づき，会議の進行を岡本会長に依頼した。

2 議 事

（1）平成25年度事業の中間報告について

- 資料に従い説明を行った。
- しらかべ号だが，以前より人数が少し減ってきているのではないか。また，バス代が高いように思われる。総括中に，今の予算では現在の参加人数の維持は難しいとあるが，今の予算の範囲内で，参加人数を維持することもできるのではないか。
- 毎年抽選を行っており，申し込みは募集枠より多数あるようだが，実際の参加人数の推移は，後ほど回答させていただく。バス代が高い理由だが，車椅子の方が乗車できるようなバスを借りるためではないかと思われる。
- 参加人数を維持したうえで，今の予算の範囲内におさめるよう努めてもらいたい。
- 実際の参加人数はだいたい，毎年同じかと思う。
- 車椅子の方が乗車できるバスを業者から借りると，通常より費用がかかる面はあると思うが，毎年少しずつでも事業の内容を吟味していく必要がある。参加者が楽しみにしているのはよく分かる。ハンディがあっても生きがいを持って生活していけることを第一に考えていきたい。
- ◎ 行き先や，年度により事情が違ってくることもあるだろう。しらかべ号の趣旨を理解しながら，全体を吟味し，サポートするという姿勢で検討していきたい。
- しらかべ号の決算（案）中，資料作成費が全体の一割近くの金額を占めており額が大きいですが，具体的にどのようなものに，どのくらい支出しているのか教えてもらいたい。
- 研修旅行後の報告集作成費がかなりかかる予定だが，報告集は作成中であり，この金額は見込み額である。旅のしおり等の作成費も含まれている。
- 基金は皆様の大事なお金であり，委託するこちら側の意見も伝えながら，見直していくことも必要

である。

- ◎ 活動総括に、昨年発行できなかった記録集発行とDVD作成をしたと書いてあるが、この費用も資料作成費に含まれているのではないか。
- 今年度分の記録集・DVD代は、資料作成費に含まれている。
- ◎ 今回のしらかべ号決算書は中間報告なので、この後詳しい内容の最終決算書が提出されると思う。提出された資料を見れば理解できる部分もあると思うので、提出を待つということではいかがか。
- 最終決算書では、資料作成費など、詳しい内訳についてチェックするという事でよいか。
- 申し込みが多く、毎回抽選しており、楽しみにしている方も大勢おられるのであれば、参加したい人はできる限り多く、参加してもらえたらよいのではないか。80人でなく、以前はもっと大勢参加していたように思うが。
- 平成21年度の資料を確認すると、現在と同程度の人数で実施されているようだ。100万の枠の中で募集人数を決め、その中で実施していると思う。
- 同じ予算内でも、行き先を近場にする等工夫をすれば、もっと大勢参加できる。工夫の仕方によって、参加人数は増やせると思うが、ハンディのある方30名を募集定員として決めているのか。
- ボランティアの方がなかなか集まらないという事も聞いたことがある。30名が基本的な人数ではないかと思われる。
- しらかべ号を楽しみにしている方がおられるのなら、知恵を出し、できるだけ大勢参加できるように工夫する必要がある。そもそも30名という定員が決まっているという事であれば、定員の見直しが必要ではないか。30名という定員を決めて募集をしているのか、100万で行ける範囲で選んでいるのか、どう理解すればよいのか。また、予算が足りず、実行委員が寄附を出さないと事業が継続できないということが総括に書かれていることや、実行委員の寄附を見越した予算書が提出されているのは、おかしいと思う。事業を発展的に考える中で、少し検討する必要があるのではないか。
- 募集定員以上に申し込みがあった場合は、前回参加していない、新たな方を優先する取扱をしているところもある。全体的なことが見直しの時期だと思う。自分達でもいろいろと工夫してもらおうと共に、こちら側でも検討する必要があるのではないか。
- 研修旅行自体は、ハンディのある方にとっても、ボランティア側にとっても有意義なものだと思うが、事業をほぼ実行委員が自ら実施しているので、専門家を入れて経費を見直すなどしてもよいのではないか。長い間続いている事業なので、スタッフ側でも少し新しい視点を入れ、工夫する必要があるのではないか。事務局と実行委員会のメンバーで、話をしたらよいと思う。
- 抽選の状況や経費について、実行委員会と一度協議をし、改善できる点があれば改善してもらおう。
- 否定的にチェックするのではなく、前向きにとらえてもらえたらと思う。
- 状況を聞いて、対策を取れるものであれば取るという形にしていきたい。事業は、ここ何年間か同程度の人数で実施しているようだ。人数については、ボランティアやスタッフの人数のバランスがあると思われるので、事情を確認する。結果については、次回報告する。
- しらかべ号の決算書(案)では、ボランティア活動保険を21名分掛けているが、これはスタッフの方21名分ということか。
- スタッフにボランティア活動保険を掛けている。
- ボランティア活動保険は、かなりお金がかさむものなので、どの程度掛けるのが適切かという思いがある。
- その日だけであれば、行事用保険という保険もある。お願いする側は、その方の最低限の安全補償

をする必要があるので、行事用保険を掛ける。1回だけでなく、年間通してボランティア活動をするのなら、ボランティア活動保険がある。内容によりどちらを選択するかがポイントになると思う。

- ◎ 地域共助型ボランティア育成事業の決算書中、ボランティア活動保険料295,200円の意味するところを、説明してほしい。
- ボランティア活動に参加する学生達が払う保険料であり、参加者1,175名の内、すでにボランティア活動保険に加入している方を除いた984名に、ボランティア活動保険に加入してもらっている。
- ◎ 保険料は参加者に払ってもらうということか。
- 参加者に払っていただく。

承認

(2)平成26年度事業計画(案)について

- 資料に従い説明を行った。
- 日常生活用具の次年度予算額が2倍以上増えているが、これは希望者が増えたためか。
- 利用件数は、ほぼ横ばいの状況で、次年度も例年と同程度の件数が見込まれるが、申し込みが増えでも対応できるよう予算上は確保している。
- ◎ おそらく需要はあると思うので、広報次第の面があるのではないか。基準額を超えるものを買う時は、自己負担もありうるということだったか。
- 物により基準額を設定し、基準額を超えるものは自己負担になる。
- 火災報知器なども数が多いと思うが、高齢者の火事が非常に多く、死亡に至るということもよく聞く。高齢者の方自ら火災報知器を付けないといけないという意識があって、申し込んでいるのだろうか。
- 寝たきりの方や一人暮らしの方は、ケアマネージャーやヘルパーと関わるが多く、そういう方を通じての申し込みが多いと聞いている。
- 家庭を訪問した時にPRし、サービスも紹介するのだが、高齢者宅への火災報知器の普及はなかなか進まず、犠牲者は減らない。
- 非課税の方、生活保護を受けられている方が主に制度、補助を活用できるというのが実情である。PRの仕方により利用が増えるのではないかということについてだが、希望者が増えてもほとんどがこの制度を活用できず、自己負担になるというのが実情である。よく制度についてご存知のケアマネージャー等や、高齢福祉課を通じて制度をご案内するという状況だ。特に火災報知器については、付いていない所があれば話をさせていただきよう、今日の委員会での話を伝えて、お願いしておく。
- ◎ 所得制限があるのか。
- 所得制限はないが、所得税課税世帯については、ほぼ自己負担となるケースが多く、制度を活用し難いのが実情だ。
- 高齢者で、年収200万前後という人達がほとんどである。火災報知器は安いもので3,000円くらいからあるが、お金がかかるとなると買わない人も多い。
- 基金は本来なら、利子で運用されることが望ましいが、実際には利子だけで運用できず基金を取崩している。平成25年度と平成26年度の予定利子にだいぶ差があるが、これは利子を小出しにしているということか？
- 基金は、出納室が有利な方法で運用している。平成25年度は、満期となる国債が多いため利子が多く、年度によりばらつきがある。

○ 利子は貯金に回すのではなく、その年度の利子は、その年度で消化していくということか。

■ はい。

承認

3 閉会

以上により、議事を終了